

# 市政ニュース

## 市議会役員決定

### 議長は升田勝義さん、副議長は福田嗣久さん

11月12日、市議会臨時会が開催され、議会役員が決まりました。

議長に升田勝義さん、副議長に福田嗣久さん、議会選出の監査委員に関貫久仁郎さんがそれぞれ選ばれました。



監査委員  
関貫久仁郎



副議長  
福田嗣久



議長  
升田勝義

なお、各委員会の委員長、副委員長は次のとおりです。

○は委員長、○は副委員長  
(敬称略)

#### ■常任委員会

##### 【総務委員会】

○嶋崎宏之 ○青山憲司

##### 【文教民生委員会】

○村岡峰男 ○伊藤 仁

##### 【建設経済委員会】

○井上正治 ○広川善徳

#### ■特別委員会

##### 【議会広報特別委員会】

○青山憲司 ○前野文孝

##### 【交通網問題調査特別委員会】

○門間雄司 ○井垣文博

##### 【防災対策調査特別委員会】

○奥村忠俊 ○浅田 徹

##### 【議会運営委員会】

○野口逸敏 ○伊賀 央

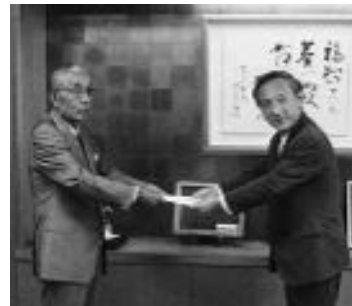
市議会の本会議の様子は、議場で傍聴できるだけでなく、インターネット中継(ライブ)でも見ることができます。

## 8月豪雨災害被災地の福知山市・丹波市、広島市に

### 義援金を届けました

市民の皆さんに本年8月豪雨災害義援金の協力をお願いしたところ、629万3382円もの義援金が寄せられました。

この義援金を、被災者の生活再建に役立てていただくため、10月22日、豊岡市区長連合会(中嶋洋二郎会長)が、福知山市と丹波市それぞれに209万7794円を届けました。



▲福知山市の伊東尚規副市長(右)に目録を贈呈する中嶋会長(左)

また、同じく豪雨災害に遭われた広島市にも、11月6日に同額を贈呈しました。

## NOMOベースボールクラブ被災地支援

### 宮城県南三陸町を野球交流で訪問

東日本大震災から3年余りが過ぎ、物的な支援から「震災を風化させない」「被災地を忘れない」といった心の支援へとニーズが移りつつあります。

そこで、被災地に元気を届けるため、NOMOベースボールクラブの協力を得て、10月25・26日、



▲基本から教わる南三陸町軟式野球チームの子どもたち

南三陸町で、野球交流事業を実施しました。同クラブは25日、石巻倶楽部シニアの皆さんと交流紅白戦を、東北地方の社会人野球チーム・東北マークスと交流試合を行いました。26日は、南三陸町軟式少年野球チームの子どもたちを対象に野球教室を開催し、交流を深めました。

## 主な市政の動き

### 【10月】

14日・10・20メモリアルデー防災・減災授業等(24日)  
19日・モンゴル出身の横綱「鶴竜」来訪  
・台風23号10周年メモリアル「防災の集い」

22日・8月豪雨災害義援金を福知山市と丹波市へお届け(11月6日・広島市)

25日・全国中学新人競漕大会(26日)

27日・市政懇談会(竹野、30日・日高、31日・城崎、11月4日・豊岡、6日・但東)

31日・「2013植村直己冒険賞」田中幹也さん講演会・クライミング等体験会(11月1日)

【11月】  
1日・第3回世界身体障害者野球大会を本市で開催(2日)

3日・旅行見本市「WTM 2014」(6日・イギリス)と旅行博「SITV 2014」に出展(7~9日・フランス)

4日・第7回永楽館歌舞伎(9日)

5日・「姉妹都市市上田市探訪豊岡市ツアー」(6日)

あの災害を決して忘れず、教訓に

## 台風23号10周年メモリアル「防災の集い」を開催

今年、平成16年台風23号から10年の節目の年です。

当時を振り返り、災害の教訓と自助・共助の重要性を再考するため、10月18・19日に、

演劇「水の彼方に」の上演と「メモリアル写真展」を豊岡市民プラザで開催しました。演劇は、公募による市民の追想手記・体験、当時の記録を中心に、復興に立ち上がる姿が

描かれました。脚本、出演など全て市民による、豊岡オリジナルの作品です。

19日は「防災の集い」として、演劇上演後、講演や防災落語、パネルディスカッションを行いました。パネルディスカッションでは、台風23号の被災者が被災体験を語り、これからの防災のあるべき姿について意見を述べました。

今後「みんなの力で命と暮らしを守る」ことが大切です。



▲パネルディスカッション

姉妹都市交流をより一層推進

## 姉妹都市上田市探訪 豊岡市民ツアーを実施



▲歓迎のあいさつをする母袋市長(右)

昭和54年11月に旧出石町が長野県の旧上田市と姉妹都市提携を結んでから、今年で35年を迎えます。

上田市は、毎年、出石お城まつりに来訪され、今年も物産展などに参加されました。本市では、11月5・6日、姉妹都市である真田の里・上田市を訪問する「豊岡市民ツアー」を実施しました。

ツアーには、27人が参加し、別所温泉に宿泊し、翌日は同温泉街の北向観音や安楽寺を訪れました。また、「信州上田城けやき並木紅葉まつり」を見物し、上田市の母袋創一市長から熱烈的な歓迎を受けまし

た。天候に恵まれ、市民とも交流し、上田市の魅力を十分に味わいました。



▲ボランティアガイドの説明を受ける参加者

## 中貝市長の徒然日記 85

男子専科

知的でおしゃれな大人たちに贈るメンズ・ファッション&ライフスタイルマガジン、伝説の雑誌「男子専科」のインタビューを受けました！

インタビューは、植村直己冒険賞の記者発表で毎年司会をしていたら、ジャーナリストの岩崎由美さん

です。「ぼくは完全無欠のミスキャスト」と申しあげたのですが、「いいえ」と笑っておられます。「コウノトリ、山陰海岸ジオパーク、出石永楽館、NOMOベースボールクラブ、南極観測隊への職員派遣、城崎国際アートセンター等々、豊岡ブランドの発信が素敵です」はあ、そうですか

インタビュは、東京有楽町の豊岡のアンテナショップなどで行われました。妻の入念な身づくろいチェックを受けてから豊岡を立ちました。「ファッション哲学は何ですか?」「ファッション哲学?」さすが男子専科。人生で初めて受けた質問でした。

「妻の提案に口答えをしない。娘のアドバイスは最優先する。これはカットされました。「人生で最大の失敗は何ですか?」「うーん、台風23号の際の危機管理の未熟さです。被害が出てからの復旧、復興は、ぼくはかなりうまくやっただけ、危険が迫ってきたときの対応は未熟でした。初めての経験でした」

「未熟?」「例えばぼくは、避難勧告を出せば人は逃げるものだと思いますが、逃げませんでした。上流の状況にも思いが至りませんでした」「どんな被害が?」「合併後の合計ですが、死者7人、床上浸水以上5千世帯。人が亡くなると、きついです」

「逆に成熟とは?」「人生は複雑で、生きるとは時にとても厄介です。その複雑さを受け入れ、耐え、それでもなお、人生を肯定して生きる。矛盾をじつとお腹に抱えて時間の経過の中で解決する。それが大人というものですよ。どうも普段の市長でないような」